

消 防 統 計 資 料

(平成29年)

住宅用火災警報器 交換のおすすめ

10年たったら、
とりカエル。



とりカエル君

Niihama City Fire Department
新居浜市消防本部

〒792-0025 新居浜市一宮町一丁目5番1号

TEL:0897(34)0119 FAX:0897(34)1189

URL:<http://www.city.niihama.lg.jp/>



～住宅用火災警報器は

10年を目安に取り換えましょう～



住宅の寝室や階段室に設置されている住宅用火災警報器は、平成18年の法令改正で消防法及び新居浜市火災予防条例により設置が義務となり、10年を経過しました。電池寿命が10年の住宅用火災警報器は、電池切れの時期になりますので、電池や本体交換が必要です。

市内においても電池切れのアラームが鳴動したり、作動確認した際に音が鳴らなかったり、故障を知らせる音声が鳴るなどの事例が発生しています。

次の方法で、交換時期の確認や、定期的な作動確認をすることで、適切な維持管理をいたしましょう。

【設置時期を調べるには】

1. 住宅用火災警報器本体に記載されている「製造年」を確認する。
2. 住宅用火災警報器を設置した際に、本体に記入した「設置年月日」を確認する。

【作動確認について】

1. 月に1回程度定期的に作動確認を行ってください。
2. 住宅用火災警報器についている「ボタンを押す」または「ひもを引く」

警報音が適正に鳴る⇒正常

警報音が鳴らない又は故障を知らせる⇒電池交換又は故障

※ 作動確認が出来ない場合は、取扱説明書をよく読み、電池（本体）を交換するか、メーカーに問い合わせる。

【交換するには】

持ち家…家電販売店、ホームセンター等で購入

（日本消防検定協会の検定品）

借家…大家若しくは管理会社に連絡し相談

目 次

	火 災	ページ
1.	火災概況	1
2.	火災種別	2
3.	建物用途別件数	2
4.	月別火災件数	3
5.	時間帯別火災件数	3
6.	曜日別火災件数	4
7.	覚知方法別火災件数	4
8.	校区别火災件数	5
9.	月別原因別火災件数	6
10.	死傷者の状況	7
11.	初期消火の状況	7
12.	10年間の火災概況(平成20年～平成29年)	8
13.	～身近な危険～ 危ない！誤給油	9、10

救 急

1.	救急活動状況	11～15
2.	高齢化の進展	16
3.	救急隊員の行った応急処置状況	16、17
4.	高速自動車道における救急活動状況	17
5.	応急手当普及啓発活動	18
6.	展望	18

救 助

1.	救助概況	19
2.	救助活動状況	19
3.	救助統計	20
4.	過去5年間の救助概況	21

火 災

1. 火災概況
2. 火災種別
3. 建物用途別件数
4. 月別火災件数
5. 時間帯別火災件数
6. 曜日別火災件数
7. 覚知方法別火災件数
8. 校區別火災件数
9. 月別原因別火災件数
10. 死傷者の状況
11. 初期消火の状況
12. 10年間の火災概況(平成20年～平成29年)
13. ～身近な危険～ 危ない！誤給油

1. 火災概況

平成29年中の火災件数は27件で、前年と比較すると3件減少しています。これは約14日に1件の割合で火災が発生したことになります。

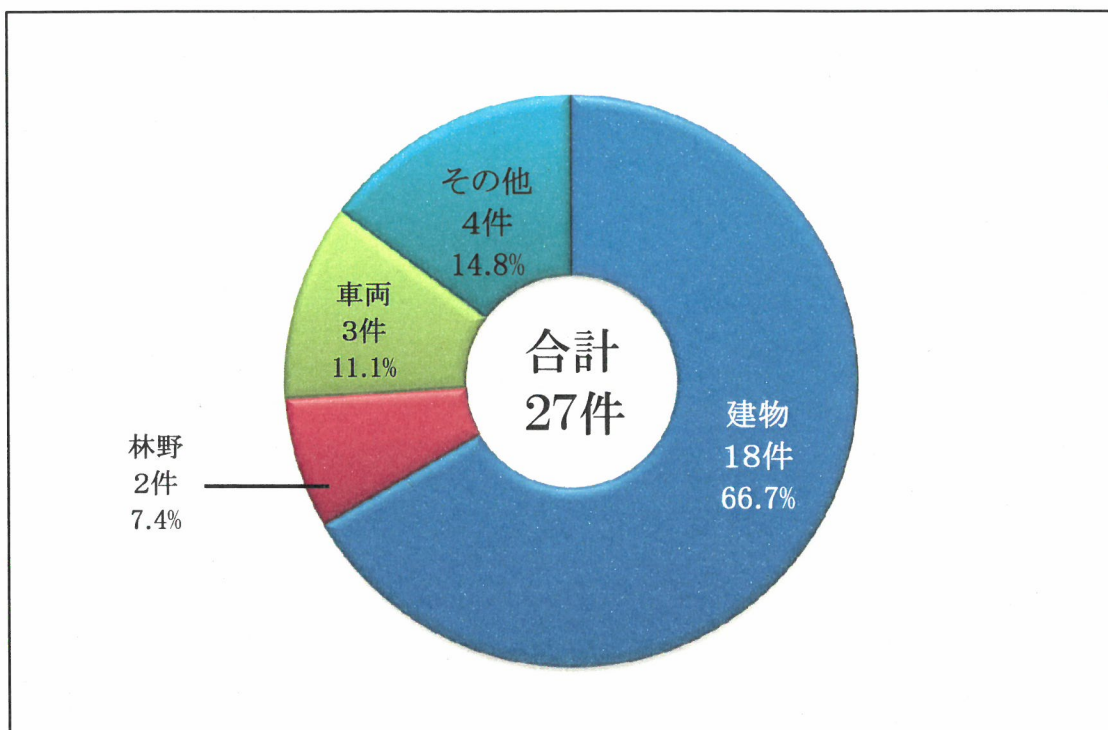
火災による死者は2人(前年1人)、負傷者は6人(前年8人)、建物焼損棟数は29棟(前年23棟)、建物焼損床面積は472.82㎡(前年667㎡)となっています。また、火災による損害額は27,765千円で、前年と比較すると5,175千円増加しています。

区 分		単 位	平成29年	平成28年	増 減
出火件数	出 火 件 数	件	27	30	▲ 3
	建 物	〃	18	19	▲ 1
	林 野	〃	2	1	1
	車 両	〃	3	1	2
	船 舶	〃	0	1	▲ 1
	そ の 他	〃	4	8	▲ 4
損害額	合 計	千 円	27,765	22,590	5,175
	建 物	〃	26,858	17,409	9,449
	林 野	〃	787	0	787
	車 両	〃	120	50	70
	船 舶	〃	0	401	▲ 401
	そ の 他	〃	0	4,730	▲ 4,730
焼損棟数	合 計	棟	29	23	6
	全 焼	〃	5	6	▲ 1
	半 焼	〃	4	2	2
	部 分 焼	〃	12	8	4
	ぼ や	〃	8	7	1
焼損面積	建物焼損床面積	㎡	427.82	667.00	▲ 239.18
	建物焼損表面積	〃	125.78	52.80	72.98
	林野焼損面積	a	17.6	8.3	9.3
死傷者	死 者	人	2	1	1
	負 傷 者	〃	6	8	▲ 2
	負傷者のうち30日死者	〃	1	0	1
り 災	世 帯 数	世 帯	17	17	±0
	人 員	人	41	33	8
出 火 率			2.23	2.45	▲0.14

※出火率とは、人口1万人当りの出火件数をいう。▲は、減少を示す。

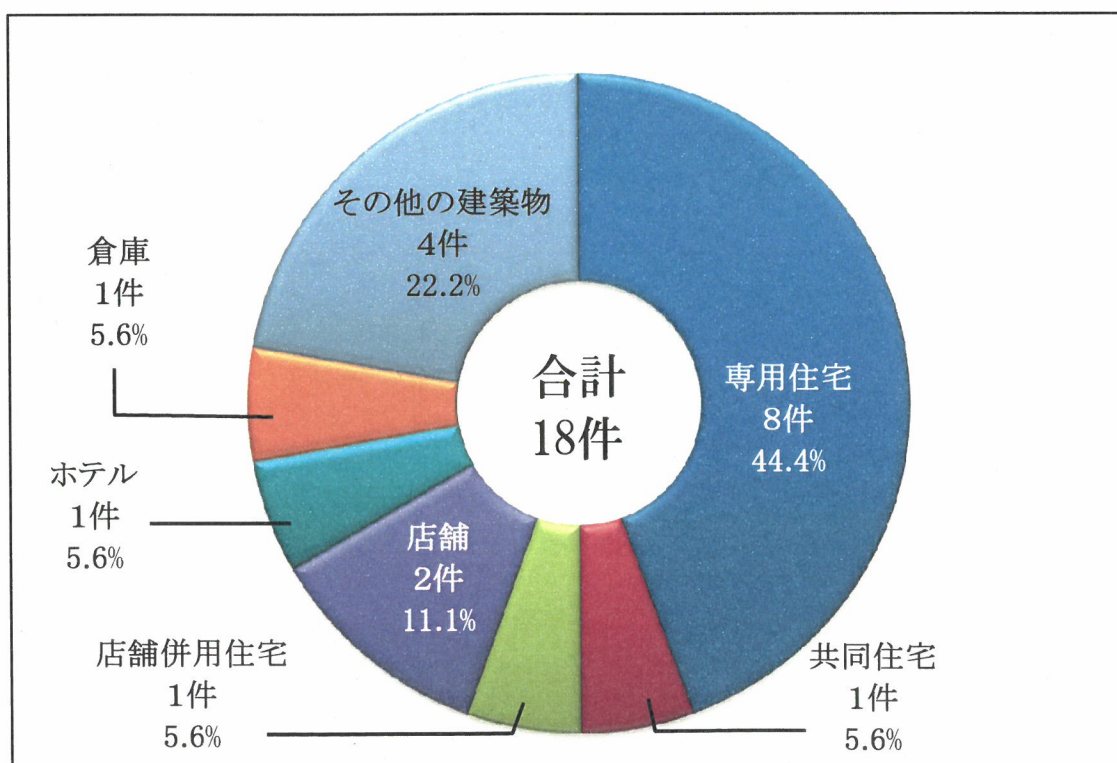
2. 火災種別

火災種別ごとの件数をみると、建物火災が18件で全火災の6割強を占めており、次いでその他の火災が4件(14.8%)、車両火災が3件、林野火災が2件となっています。



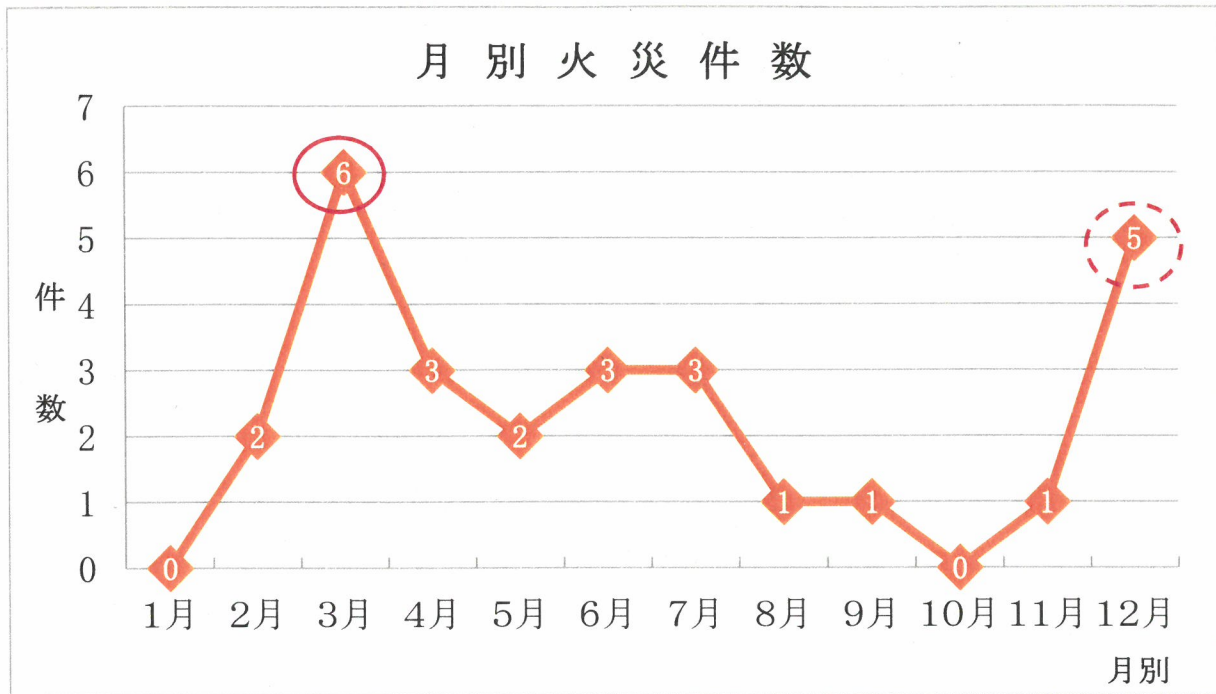
3. 建物用途別件数

建物火災を用途別にみると、住宅(共同住宅、店舗併用住宅を含む)火災が10件と最も多く、建物火災の56%を占めています。



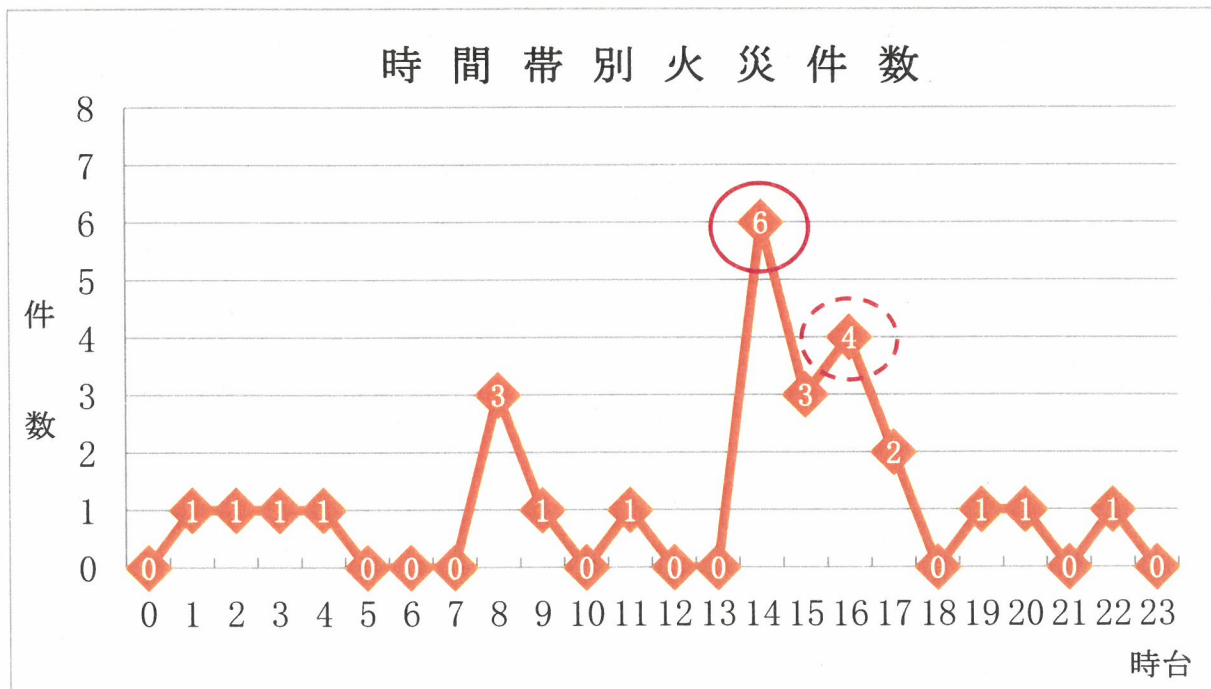
4. 月別火災件数

火災件数を月別にみると、3月（6件）が最も多く、次いで12月（5件）となっています。



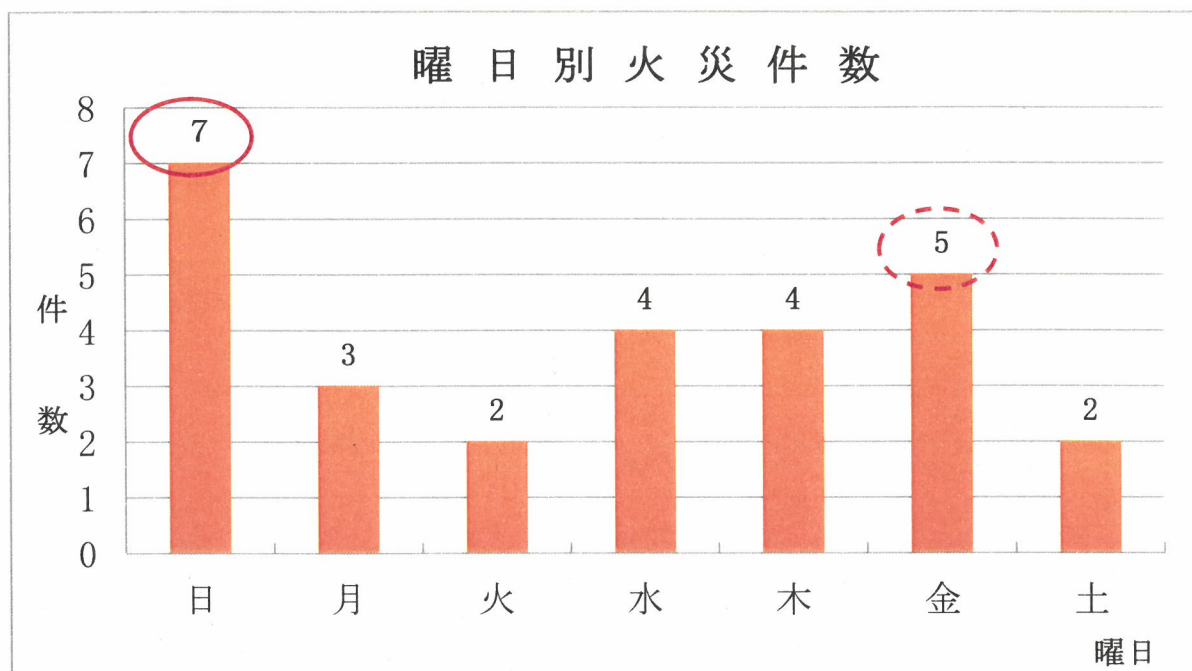
5. 時間帯別火災件数

火災件数を時間帯別にみると、14時台（6件）が最も多く、次いで16時台（4件）となっています。



6. 曜日別火災件数

火災件数を曜日別にみると、日曜日（7件）が最も多く、次いで金曜日（5件）となっています。



7. 覚知方法別火災件数

消防機関が火災を覚知した方法別にみると、携帯電話からの119番通報（13件）が最も多く、次いで固定電話からの119番通報（11件）となっています。

覚知方法別	件 数	割 合
119(携帯電話から)	13	48.2%
119(固定電話から)	11	40.7%
加入電話(携帯電話から)	1	3.7%
駆けつけ通報	1	3.7%
その他	1	3.7%
計	27	100%

8. 校区別火災件数

校区単位での火災発生件数です。

- ・川西地区： 13件
- ・川東地区： 3件
- ・上部地区： 11件

大島
1

若宮 0	宮西 2	新居浜 6	高津 1	浮島 0	垣生 1
惣開 1	金子 3		神郷 0		多喜浜 0
金栄 1					

大生院 1	中萩 4	泉川 3	船木 1
角野 2			
別子 0			

※大島は旧大島小学校区です。

9. 月別原因別火災件数

全火災27件を出火原因別にみると、「電灯・電話等の配線」「たばこ」が最も多く各4件、「火入れ」が2件、「その他」が3件となっています。

月別 原因別	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
発生件数	27	0	2	6	3	2	3	3	1	1	0	1	5
電灯・電話等の配線	4		1	2								1	
たばこ	4						1	1					2
火入れ	2				1				1				
ストーブ	1			1									
灯火(ローソク)	1			1									
配線器具	1				1								
内燃機関	1					1							
電気装置	1									1			
ライター	1												1
放火	1												1
こんろ	1												1
その他	3						1	2					
不明	6		1	2	1	1	1						

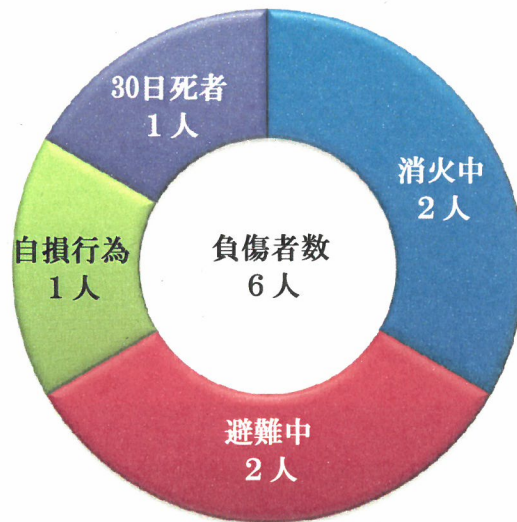
10. 死傷者の状況

(1) 死者の発生状況

火災による死者は28年は1人でしたが、29年は2人（逃げ遅れ）となっています。

(2) 負傷者の発生状況

火災による負傷者は6人で、前年(8人)と比較すると2人減少しています。負傷者のうち30日死者は1人です。



11. 初期消火の状況

初期消火の状況を見ると、初期消火が実施されたのは17件で、そのうち11件が消火に成功し、火災鎮圧に効果がありました。

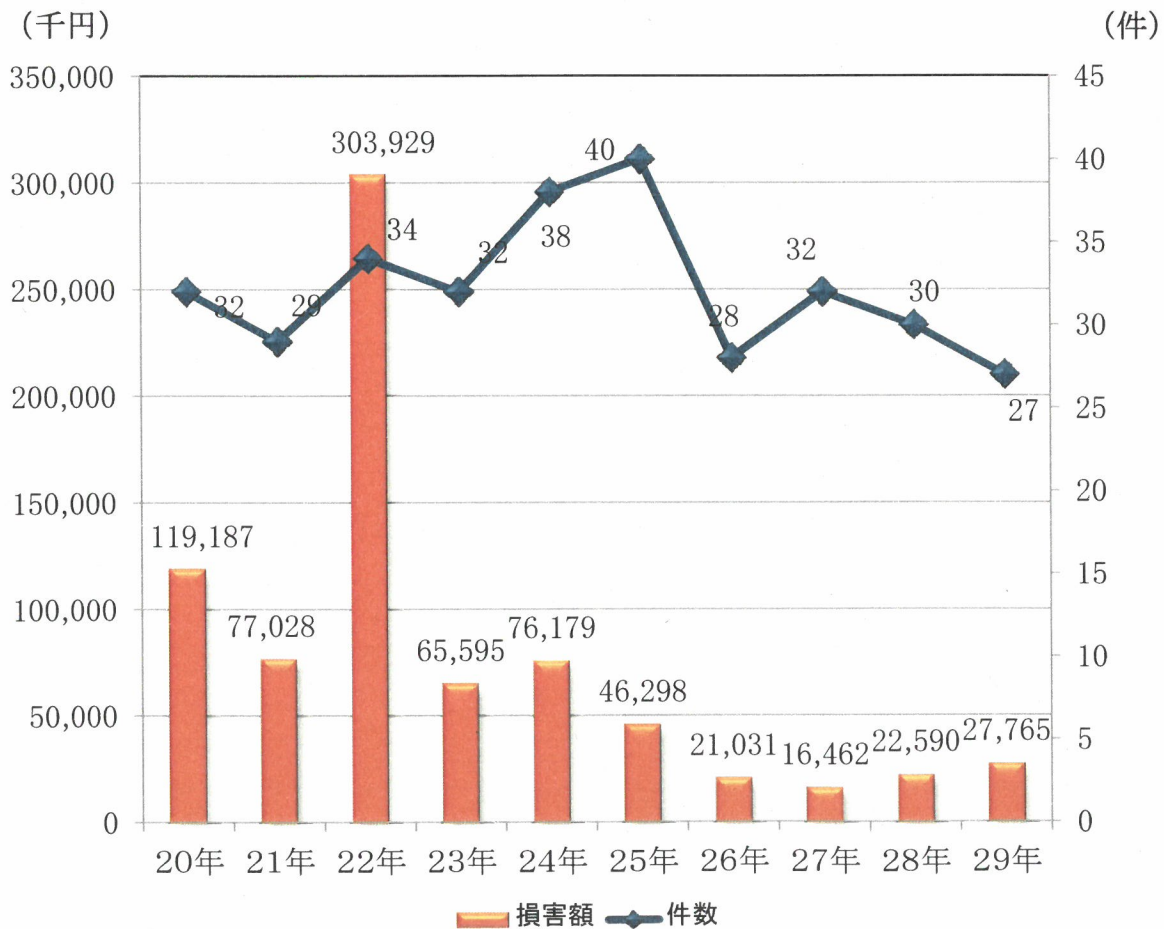
また、使用された初期消火器具等をみると、粉末消火器が9件で最も多く、次いで水道、浴槽、汲み置き等の水をかけたが4件となっています。

火 災 件 数	27
初期消火実施（構成比）	17（63%）
初期消火なし（構成比）	10（37%）

初 期 消 火 方 法	実 施 件 数	有 効 件 数 (有 効 率)
粉 末 消 火 器	9	7 (78%)
水道、浴槽、汲み置き等の水をかけた	4	3 (75%)
そ の 他	2	1 (50%)
水 バ ケ ツ	1	0 (0%)
寝 具 、 衣 類 等 を か け た	1	0 (0%)
合 計	17	11 (65%)

12. 10年間の火災概況(平成20年～平成29年)

区分 年別	件数 (件)	損害額 (千円)	負傷者 (人)	死者 (人)	出火原因 ワースト1 (件数)
平成20年	32	119,187	6	5	こんろ(6)
平成21年	29	77,028	4	1	こんろ、たばこ(各5)
平成22年	34	303,929	6	3	たばこ(8)
平成23年	32	65,595	5	2	たばこ(4)
平成24年	38	76,179	3	1	こんろ(6)
平成25年	40	46,298	4	0	たばこ(7)
平成26年	28	21,031	2	5	放火の疑い(5)
平成27年	32	16,462	5	0	火遊び(5)
平成28年	30	22,590	8	1	ストーブ、こんろ、 内燃機関、電気機器 (各2)
平成29年	27	27,765	6	2	電灯・電話等の配線、 たばこ(各4)



※平成22年については、大規模な工場火災により損害額が増加

13. ～身近な危険～ 危ない！誤給油

家庭での誤給油

石油ストーブやファンヒーターを多く使用する季節になりました。石油ストーブによる火災は、誤使用や不注意による原因が大半を占めており、そのうち約1割がガソリンや軽油を、灯油と間違えてストーブに給油したことによるものです。

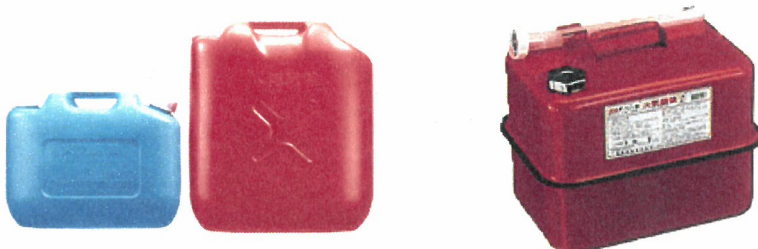
もし、ストーブのタンクに誤ってガソリンを入れてしまった場合、燃焼しているうちにガソリンが揮発し、タンク内部の圧力が高まってガソリンが外部に染みだし引火、ストーブ全体が炎に包まれてしまいます。しかも、ストーブの多くは室内で使用されるため、炎は一気に周囲に燃え広がる危険性があります。



石油ストーブのタンクには、絶対
ガソリンを入れてはいけません！



- ・油の種類によって専用の容器を使用する。
- ・色や形状を変えたり、ラベルを貼る。
- ・ガソリンは専用の金属容器で保管する。
- ・給油する前に燃料の色を確認する。
ガソリン…オレンジ系
灯油…無色透明
- ・灯油と他の油の保管場所を分ける。



セルフガソリンスタンドでの誤給油

セルフスタンドの普及に伴い、ガソリンを入れるはずの自動車に軽油を入れるなどの誤給油がしばしば起きています。誤給油は故障の原因となるだけでなく、誤って入れた機器によっては火災が起きた例もあります。

セルフスタンドのノズルカバーやノズル受けには、誤給油を防ぐため、ハイオクガソリンは『黄』、レギュラーガソリンは『赤』、軽油は『緑』、灯油は『青』に色分けされています。これらをしっかり確認して、誤給油しないよう気をつけましょう。

給油設備



(緑) (黄) (赤)

灯油用



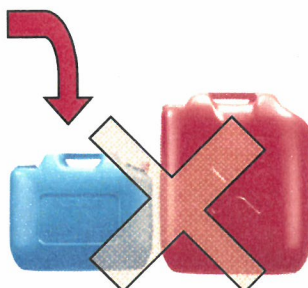
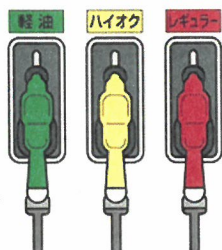
(青)

ノズルの色や表示を
しっかり確認して、
安全に給油しましょう！



◆容器への詰め替えの注意点

- ・利用客は自らガソリンを容器に詰め替えることはできません。
- ・灯油用ポリエチレン容器はガソリン及び軽油用容器として使用できません。



救 急

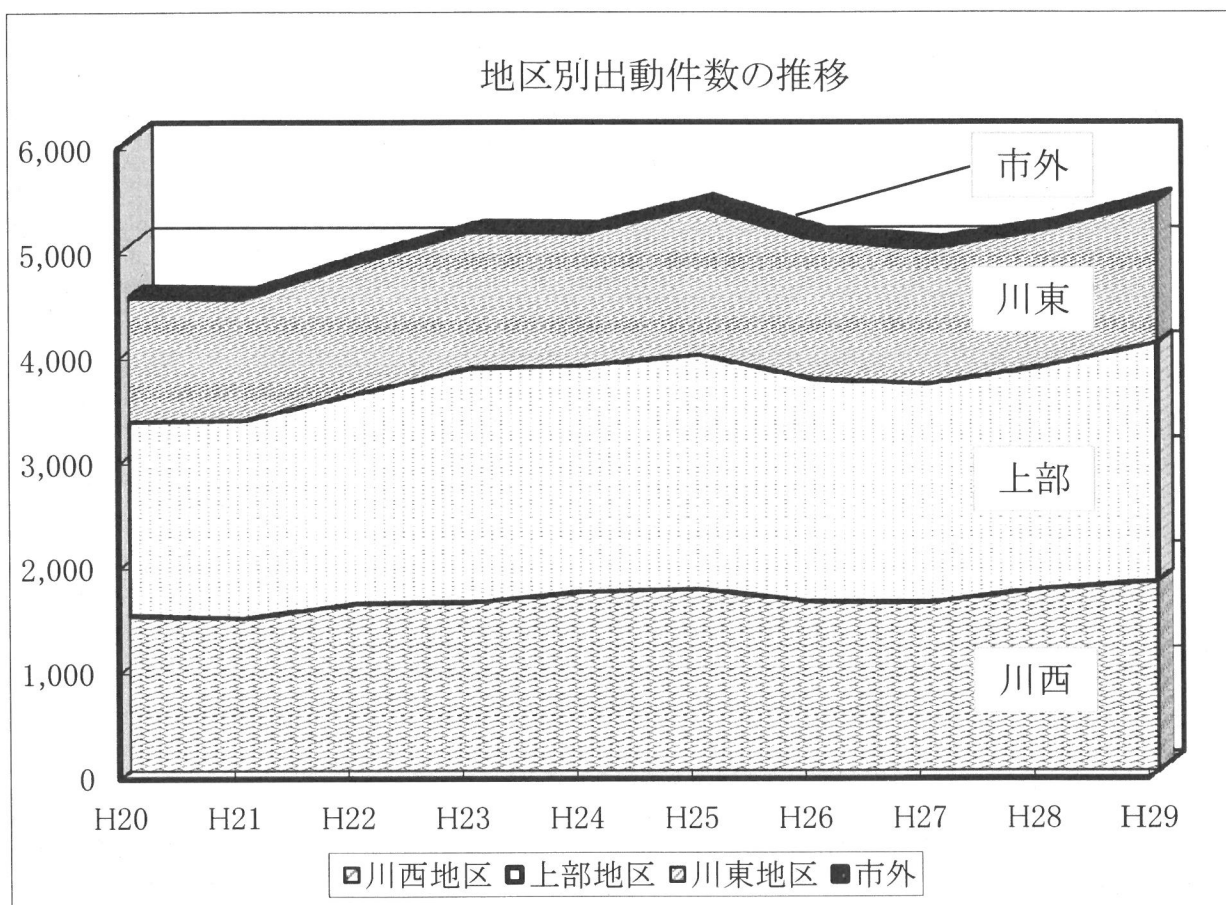
1. 救急活動状況
2. 高齢化の進展
3. 救急隊員の行った応急処置状況
4. 高速自動車道における救急活動状況
5. 応急手当普及啓発活動
6. 展望

1. 救急活動状況

(1) 地区別救急出動件数の推移

平成29年中の救急出動件数及び救急搬送人員は、それぞれ5,430件、4,879人であり、前年と比べて救急出動件数は284件(5.5%)、救急搬送人員は239人(5.2%)の増加となりました。

救急出動件数の一日平均は14.9件で救急搬送人員は市民24.8人に1人が搬送されたこととなります。平成27年に救急出動件数は5,000件を下回りましたが、平成28年から再び5,000件を超える出動件数となり平成29年は過去最多の救急出動件数となりました。

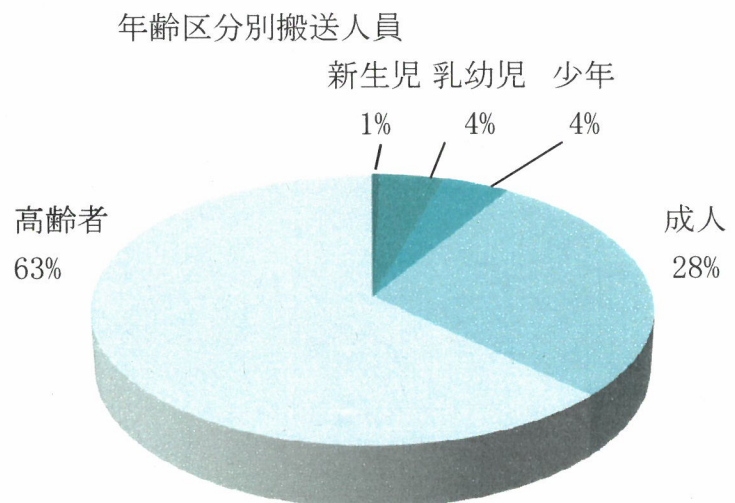
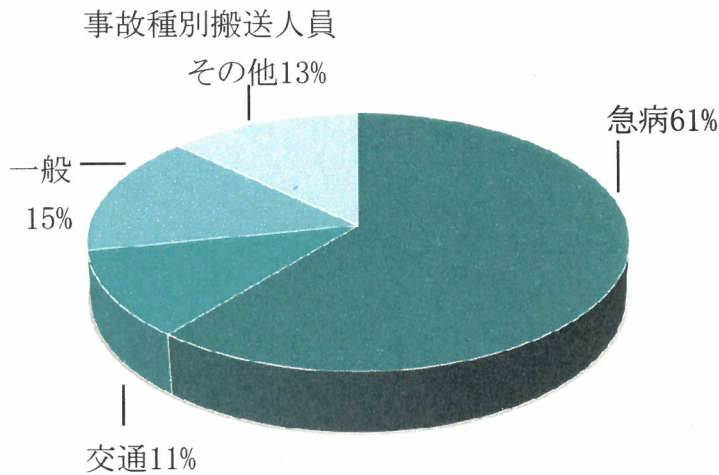


	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
川西地区	1,485	1,457	1,596	1,607	1,709	1,731	1,610	1,604	1,733	1,808
上部地区	1,841	1,878	1,995	2,228	2,151	2,230	2,117	2,077	2,114	2,266
川東地区	1,184	1,159	1,247	1,299	1,262	1,408	1,333	1,289	1,298	1,346
市外	6	5	4	2	2	11	2	11	1	10
合計	4,516	4,499	4,842	5,136	5,124	5,380	5,062	4,981	5,146	5,430

(2) 事故種別・年齢区分別搬送人員の状況

搬送人員を事故種別ごとにみると、急病が2,964人(61%)、交通事故が523人(11%)、一般負傷が756人(15%)の割合となっています。依然、急病の占める割合が高いことが伺えます。

年齢区分別搬送人員では、高齢者が約6割を占め、次いで成人が多くなっています。



事故種別・年齢区分別搬送人員

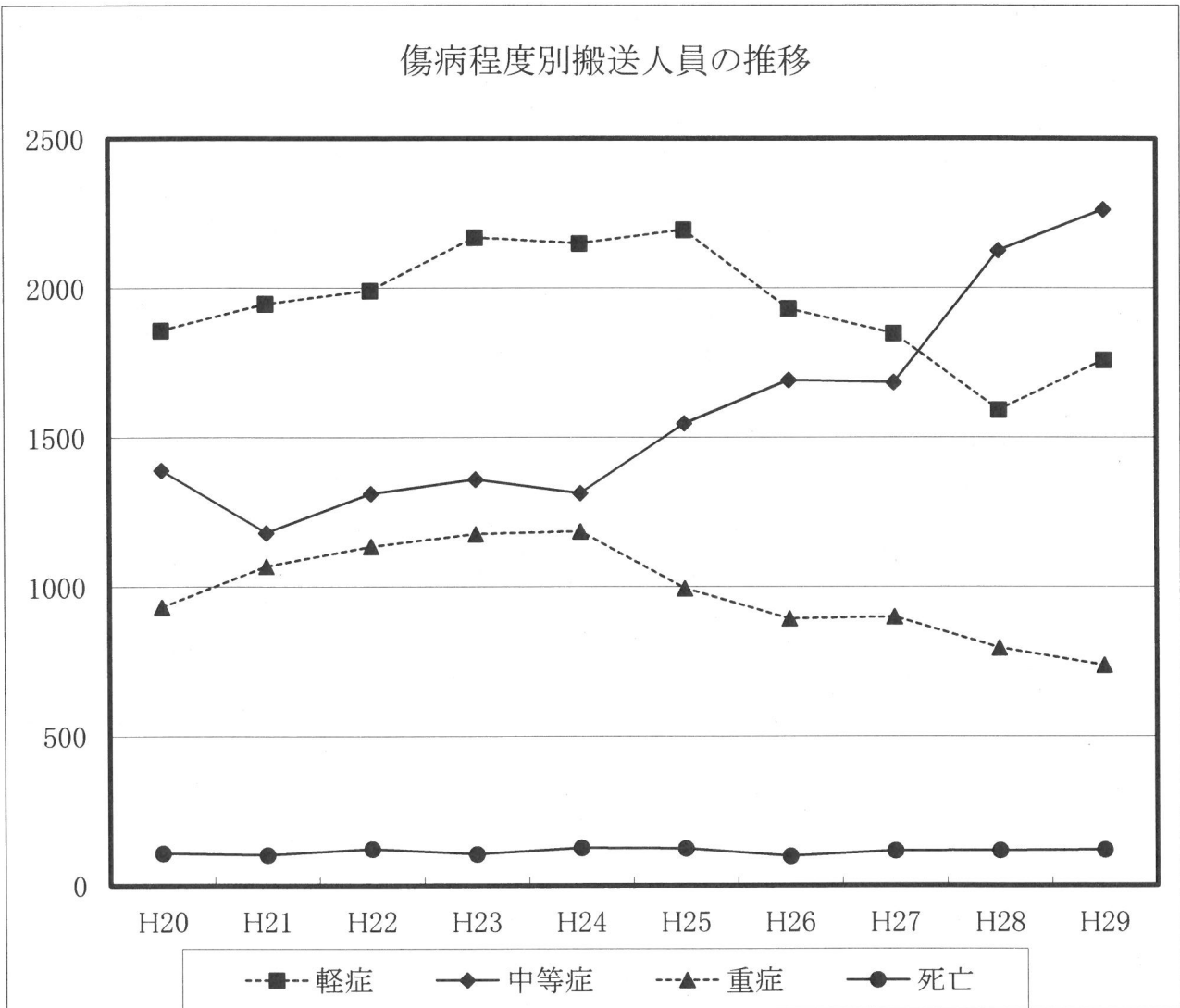
(平成29年中)

事故種別 年齢区分	急病	交通	一般	その他	合計
新生児				25	25
乳幼児	123	12	48	14	197
少年	79	67	25	36	207
成人	716	281	122	263	1,382
高齢者	2,046	163	561	298	3,068
合計	2,964	523	756	636	4,879

(3) 傷病程度別搬送人員の状況

搬送人員を傷病程度別にみると、入院加療が必要な重症・中等症が半数以上を占めています。また、近年では中等症が増加傾向にあります。平成27年までは軽症が最も多い内訳でしたが、平成28年から2年連続で中等症が最も多い搬送状況となりました。

年齢別にみると年齢を重ねるにつれ、重症度の割合が増加しており、成人では重症が10.1%に対し、高齢者では18.9%となり、長期間の入院加療が必要となっています。



(平成29年中)

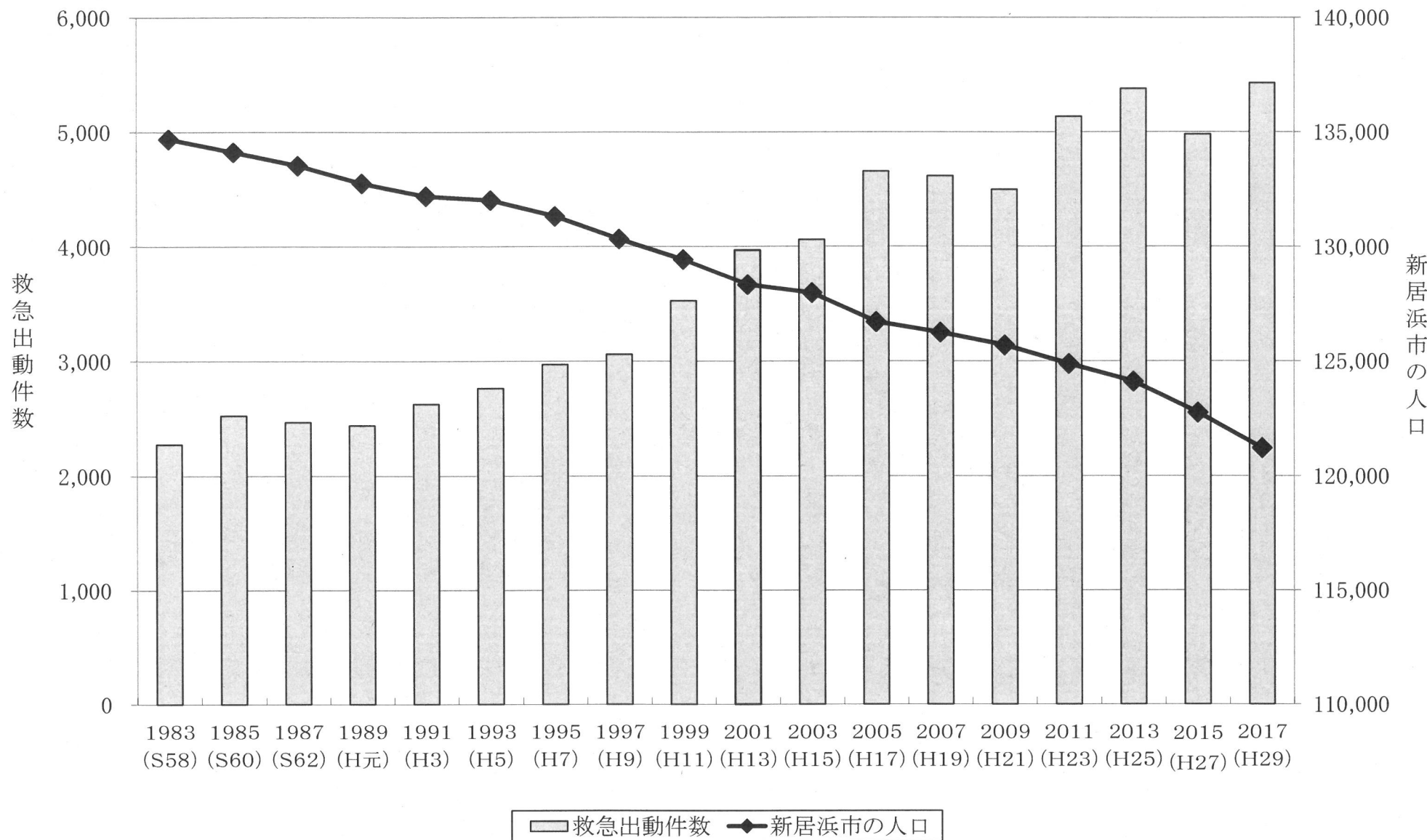
傷病程度 年齢区分	死 亡	重 症	中 等 症	軽 症	その他	合 計
新生児		4	19	2		25
乳幼児		5	67	125		197
少年		10	69	128		207
成人	12	139	578	653		1,382
高齢者	107	580	1,530	851		3,068
合 計	119	738	2,263	1,759	0	4,879

事故種別救急活動状況

(平成29年中)

	合計	月 別												
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
出動件数	5,430	521	455	447	434	381	413	481	421	451	487	456	483	
搬送人員	4,879	473	407	405	398	340	378	435	367	412	431	410	423	
火災	出動件数	6		1	2		1						2	
	搬送人員	5			2		1						2	
自然災害	出動件数	2								2				
	搬送人員	1								1				
水難	出動件数	4		2	1		1							
	搬送人員	4		2	1		1							
交通事故	出動件数	561	44	50	49	45	48	46	60	52	39	53	34	41
	搬送人員	523	47	44	47	40	43	43	62	48	36	47	30	36
労働災害	出動件数	34	2	2	1	3	2	3	4	3	5	3	6	
	搬送人員	34	2	2	1	3	2	3	4	3	5	3	6	
運動競技	出動件数	29	2	1	1	1	1	6	4	2	3	3	5	
	搬送人員	30	2	1	1	1	1	6	4	2	3	3	6	
一般負傷	出動件数	830	95	63	50	71	53	56	79	67	55	85	71	85
	搬送人員	756	84	60	45	71	47	53	69	58	54	73	68	74
加害	出動件数	27	1	2		7	4	3	2	1	1	4	1	1
	搬送人員	22		1		6	3	3	2	1	1	4		1
自損行為	出動件数	50	5	3	2	2	4	6	6	6	5	6	4	1
	搬送人員	30	3	2		1	2	3	4	4	2	5	3	1
急病	出動件数	3,331	322	298	285	255	226	250	287	253	290	285	284	296
	搬送人員	2,964	290	262	256	231	203	229	254	214	264	253	253	255
その他	出動件数	556	50	36	56	47	43	41	39	37	51	48	51	57
	搬送人員	510	45	35	53	42	39	36	36	37	46	43	44	54

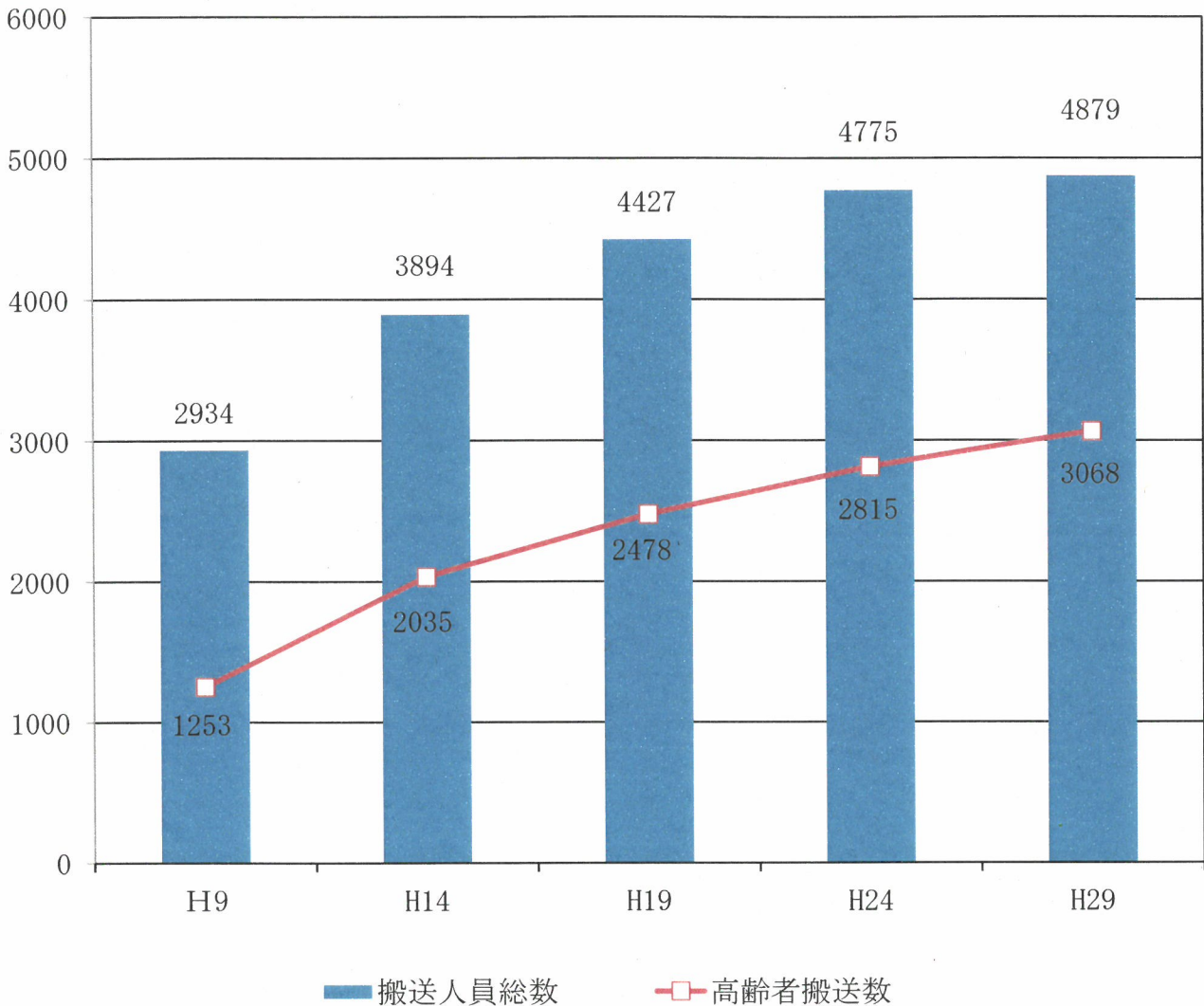
新居浜市の人口と出動件数の推移



2. 高齢化の進展

平成19年（2478人）と平成29年（3068人）を比較すると、高齢者の搬送人員は590人増加しています。

今後も高齢化の進展に伴い、高齢者の救急搬送の更なる増加が予想されます。



3. 救急隊員の行った応急処置状況

(1) 救急蘇生指標

救命効果について考えてみると、平成29年中に搬送した心肺停止傷病者数147人のうち、循環または呼吸機能の回復が見られたのは32人であり、全体の21.8%です。また、ADL良好の社会復帰者数は2人になりました。

医師引継時に脈拍又は呼吸再開	32人	21.8%
7日後 生存者数	11人	7.9%
1ヶ月後 生存者数	8人	5.7%
社会復帰者数	2人	1.4%

(2) 応急処置実績

救急救命士及び救急課程有資格者の増加に伴い、応急手当件数の増加が予想されます。また、平成28年度から救急救命士に心停止前輸液やブドウ糖投与ができるようになり応急処置の幅が広がっただけでなく、傷病者の予後改善にも期待できるようになってきました。今後も更なる応急処置拡大が望まれます。

応急処置の拡大9項目件数

処 置 内 容	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
血圧測定	4,270	4,441	4,197	4,084	4,180	4,419
心音・呼吸音の聴取	1,650	1,692	1,543	1,461	1,548	1,383
血中酸素飽和度の測定	4,411	4,614	4,357	4,247	4,344	4,577
心電図の観察・伝送	1,508	1,335	1,487	1,504	1,794	1,907
経鼻エアウェイによる気道確保	19	14	20	12	16	18
喉頭鏡・鉗子等による異物除去	33	23	33	41	41	49
自動式心マッサージ器	51	6	1	7	30	29
特定在宅療法の維持	20	18	15	19	12	6
ショックパンツによる血圧保持						

救急救命士による高度処置の件数

処 置 内 容	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
ラリゲアルマスク等の気道確保	10	8	4	3	4	3
気管挿管	15	9	10	16	15	17
除細動	12	9	9	9	8	11
静脈路確保(心肺停止前)					1	11
静脈路確保(心肺停止時)	23	20	19	16	24	24
薬剤投与	6	14	9	13	12	13
血糖測定					5	16
ブドウ糖溶液投与						2

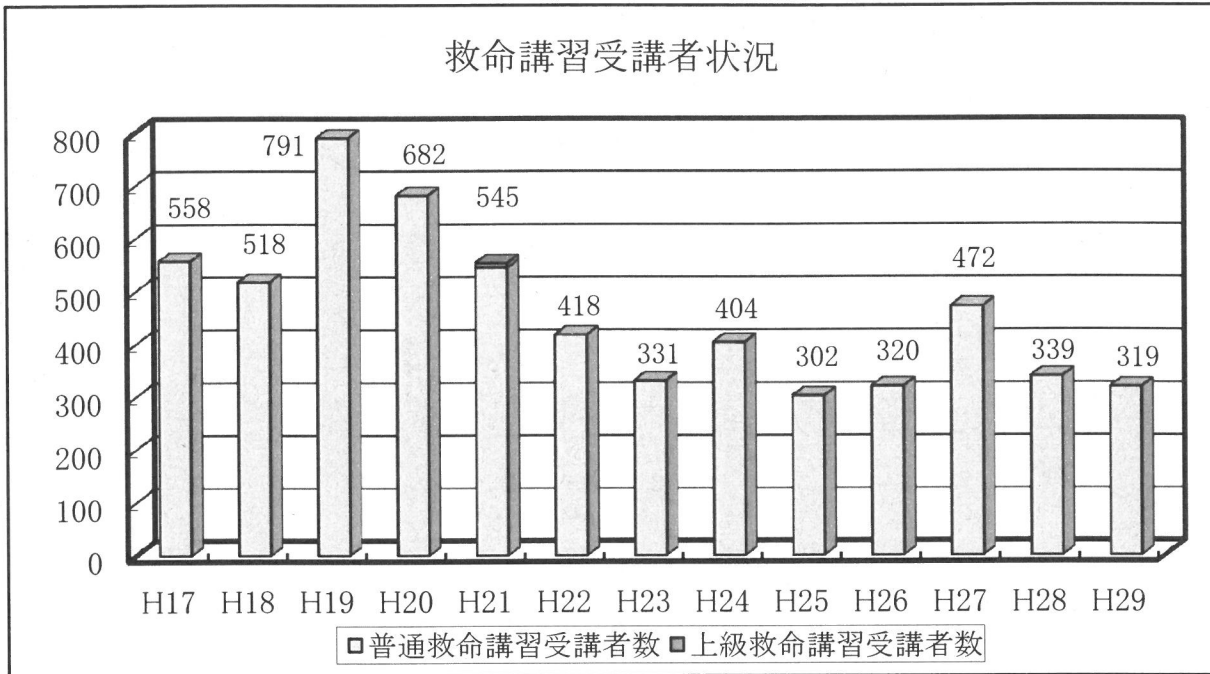
4. 高速自動車道における救急活動状況

区 分 年 別	出動件数				搬送人員			
	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
地区別 新居浜管内	7	4	2	5	13	5	3	5
西条管内								
四国中央管内	2	9	1	7	1	7	1	4
合 計	9	13	3	13	14	12	4	9

5. 応急手当普及啓発活動

救命率の向上を図るには、通報から現場に救急車が到着するまでの間、バイスタンダーによる応急手当が必要不可欠です。

平成29年中の普通救命講習の受講者数は319名で、平成17年9月から行われているAEDを用いた普通救命講習の受講者は5,612名となり、平成6年からの受講者累計は13,207名となりました。



6. 展 望

救命率向上のため、救急救命処置範囲拡大の方向性が提示され、自動体外式除細動器（AED）については、平成16年7月付け厚生労働省医政局長通知にて、一般消防職員及び一般市民を対象に講習の実施体制が図られ、新居浜市では平成17年9月から一般市民に対するAED講習を開始しました。バイスタンダーによる迅速な心肺蘇生（CPR）や電氣的除細動が積極的に行われるようAED資機材の整備及び講習会を今後も積極的に実施していく予定です。

救急救命士の処置拡大については、この10年以内で医師の包括的指示下による除細動、医師の具体的指示下における気管挿管、薬剤（アドレナリン）投与が認められ、自己注射が可能なアドレナリン製剤によるアドレナリン投与が可能となり、救急活動を実施しています。また、平成28年4月から更なる処置範囲の拡大として、ビデオ硬性喉頭鏡を使用した気管挿管、血糖値測定とブドウ糖投与、心停止前の静脈路確保と輸液が実施可能となり、救命率の向上につながることを期待されます。

平成28年に引き続き平成29年の出動件数も、5,000件を上回りました。国の救急出場件数の将来推計は2025年まで増加すると予想されています。新居浜市においても同様な傾向が予想されるため、将来的な処置拡大を含めた各種研修やメディカルコントロール体制の構築を推進していくことでより多くのバイスタンダーを育成し救命率の向上に繋げる必要があると考えます。また、更なる救急業務全体の質を向上させるためには、現場経験豊富なベテラン救急救命士が、救急救命士や救急隊員へ教育することが重要であり、今後指導的立場の救急救命士の構築が加速していくものと考えます。

救 助

1. 救助概況
2. 救助活動状況
3. 救助統計
4. 過去5年間の救助概況

1. 救助概況

平成29年中の救助出動件数は40件、活動件数は26件となっており、前年と比較すると、出動件数は3件の増加、活動件数は5件の増加となっています。また、救助人員は28人となっており、前年と比較すると1人増加しています。

2. 救助活動状況

(1) 事故種別出動件数・活動件数・救助人員（表－1）

救助出動件数は40件であり、その内訳は、火災2件、交通事故20件、水難事故5件、風水害等自然災害2件、機械による事故1件、その他の事故10件となっています。

活動件数は、26件となっており、火災2件、交通事故13件、水難事故4件、風水害等自然災害1件、その他の事故6件となっています。

救助人員は28人となっており、火災2人、交通事故15人、水難事故4人、風水害等自然災害1人、その他の事故6人となっています。

(2) 事故種別出動人員・活動人員(表－2)

総出動人員は530人で、1件の事故に対する平均出動人員は13.3人(うち救助隊員3.3人)となっています。

総活動人員は319人で、1件の事故に対する平均活動人員は12.3人(うち救助隊員3.2人)となっています。

(3) 事故種別出動車両等台数(表－3)

出動車両は、救助工作車35台、消防ポンプ車39台、指揮車・指令車16台、救急自動車48台、ヘリコプター1機、その他24台で、総出動車両は163台であり、火災16台、交通事故63台、水難事故32台、風水害等自然災害3台、機械による事故2台、その他の事故47台となっています。

(4) 事故種別活動車両等台数(表－4)

活動車両は、救助工作車23台、消防ポンプ車24台、救急自動車27台、指揮車・指令車11台、ヘリコプター1機、その他17台で、総活動車両は103台であり、火災12台、交通事故38台、水難事故27台、風水害等自然災害1台、その他の事故25台となっています。

3. 救助統計

表-1

事故種別出動件数・活動件数・救助人員

事故種別		火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械 による事故	建物等 による事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他の 事故	合計
件数区分											
	出動件数	2	20	5	2	1				10	40
	活動件数	2	13	4	1					6	26
	救助人員	2	15	4	1					6	28

表-2

事故種別出動人員・活動人員

事故種別		火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械 による事故	建物等 による事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他の 事故	合計
件数区分											
出動人員	兼任救助隊員	13	70	32	6	3				39	163
	消防隊員	30	77	68	2	1				52	230
	救急隊員	6	82	15	3	3				28	137
	合計	49	229	115	11	7				119	530
活動人員	兼任救助隊員	4	41	28	3					23	99
	消防隊員	2	48	60	1					30	141
	救急隊員		49	12						18	79
	合計	6	138	100	4					71	319

表-3

事故種別出動車両等台数

事故種別		火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械 による事故	建物等 による事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他の 事故	合計
件数区分											
出動 車両 等	救助工作車	2	20	5	2	1				5	35
	消防ポンプ自動車	8	15	5						11	39
	梯子車・屈折梯子車										
	化学車										
	指揮車・指令車	2		5						9	16
	救急自動車	2	27	5	1	1				12	48
	船舶										
	ヘリコプター									1	1
	その他	2	1	12						9	24
合計	16	63	32	3	2				47	163	

表-4

事故種別活動車両等台数

事故種別		火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械 による事故	建物等 による事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他の 事故	合計
件数区分											
活動 車両 等	救助工作車	2	12	4	1					4	23
	消防ポンプ自動車	6	9	4						5	24
	梯子車・屈折梯子車										
	化学車										
	指揮車・指令車	2		3						6	11
	救急自動車	1	16	4						6	27
	船舶										
	ヘリコプター									1	1
	その他	1	1	12						3	17
合計	12	38	27	1					25	103	

4. 過去5年間の救助概況

区分		事故種別	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
出動件数	火災		1				2
	交通		19	28	27	24	20
	水難		5	5	3	2	5
	その他		14	15	9	11	13
	合計		39	48	39	37	40
活動件数	火災		1				2
	交通		10	13	15	11	13
	水難		5	4	2	2	4
	その他		11	15	6	8	7
	合計		27	32	23	21	26
救助人員	火災		1				2
	交通		12	16	22	17	15
	水難		5	4	2	2	4
	その他		11	15	4	8	7
	合計		29	35	28	27	28

